



血糖値はどうやって測っているのでしょうか

健康診断でも測ることのある血糖値は、いったいどのように検査しているのか解説していきます。

まず、糖尿病患者さんが使用している自己血糖測定器（SMBG）と病院内で測定している検査方法では、酵素法でほとんど変わりはないのですが、検査に用いる血液の形態が異なります。

自己血糖測定器では全血を用いて検査を行います。これに対し、病院内での検査では血漿を用います。血漿というのは、血液が固まるのを防ぐ抗凝固剤入りの採血管を使用して採取した血液を遠心分離によって、血球成分だけを沈降させ、その上澄みのことを言います。

基準範囲は静脈血漿を用いた場合は、空腹時で70～109mg/dL（当院の基準値です）です。自己血糖測定器の値はこの静脈血漿値に換算されています。

SMBG

- ・いつでもどこでも血糖の測定が可能。
- ・少量の血液で測定できる。

病院内の測定装置

- ・広い範囲の測定が可能。
- ・SMBGのように血漿値に換算しない分より正確な血糖値を測定できる。

これ以外にも、リブレという持続血糖測定では間質液中のグルコース濃度を連続的に測定することで点ではなく線で血糖の変動を知る事ができる機械もあります。これらはそれぞれにメリットがあるため用途に応じて使い分けています。

<編集後記>

まだまだ暑い日が続きますが水分補給はこまめに行ってください。

発行元：市立三次中央病院

糖尿病療養指導チーム

文責：臨床検査技師（今井李空）

